

6. 赤門通り歩行者空間整備

対象地と課題：市道谷津坂 489号線（幅員 5.0 m・総延長約 460 m）

- * 称名寺と金沢歴史の道を結ぶ道路であり、古くから六浦から称名寺へ参る参道として、利用されてきた。現在は文庫小学校への通学路としても指定されている。
- * 道路西側に約1.0mの路側帯が確保されている。また、道路は南から北方向への一方通行となっており、金沢海岸通りへの通過交通路となっている。
- * 現在も称名寺への観光客や沿道の商店街への買い物などで利用されている道路であるが、通過交通が多く、安全な歩行者空間の確保を進める必要がある。

方策

1. 歩行者通行用路側帯のカラー舗装化（短期）

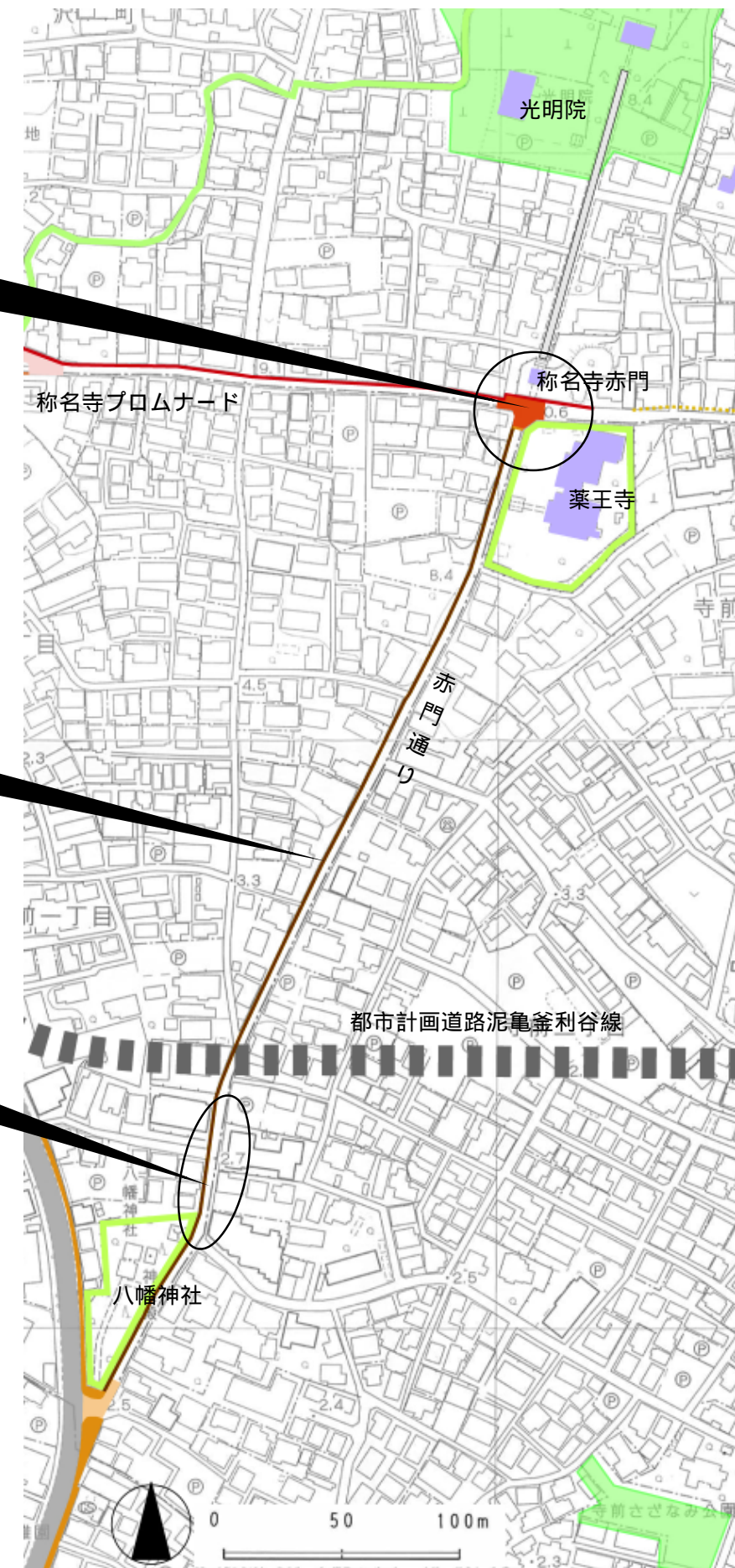
- * 称名寺赤門前から金沢歴史の道までの“赤門通り”において、かつて称名寺に至る参道として利用されてきた歴史的背景を活かし、既存の路側帯外側部分や交差点部分のカラー舗装化を進める。

2. 交差点部分のカラー舗装化（短期）

- * 称名寺赤門前や八幡神社前など、人や車通りの多い場所や、主要な歩行者動線との交差点ではカラー舗装化等の整備を進める。

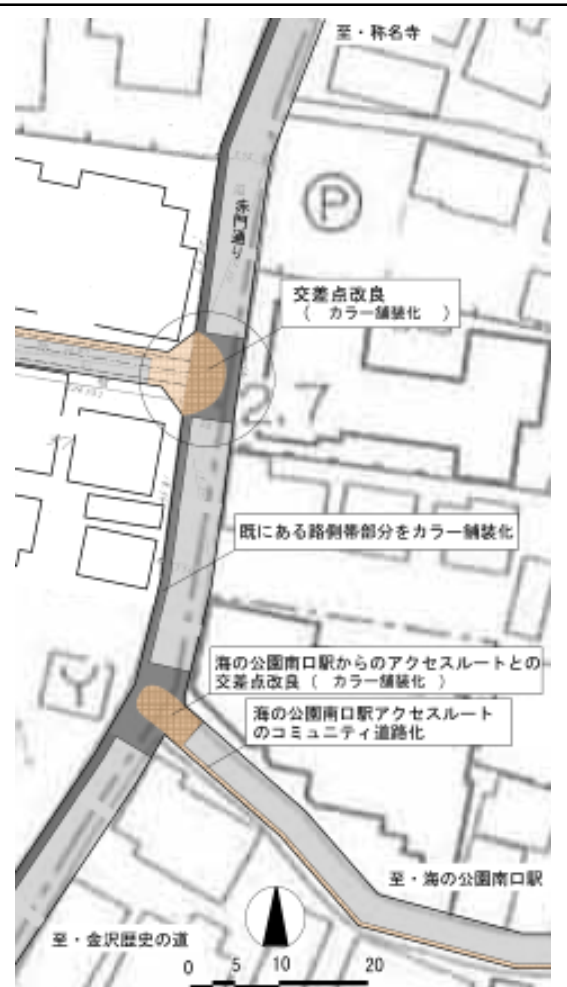
■称名寺赤門前のカラー舗装化

交差点をカラー舗装化する。



■赤門通り歩行者空間整備イメージ

歴史的な背景を活かし、既存の路側帯外側部分の舗装をカラー舗装で整備する。



■赤門通り歩行者空間整備平面舗装イメージ

7. 金沢歴史の道（金沢土木事務所横含む）歩行者空間整備

対象地と課題：金沢歴史の道・金沢土木事務所横道路

*旧国道16号の金沢歴史の道は現在も国道規格の車道より歩道部分が高い構造のため、車道と歩道に段差が生じる歩道（マウントアップ形式）となっており、歩道幅員約2.4m（標準）・車道との段差が約20cmで、歩道幅が狭く段差も大きいことから、切り下げ部における車いすでの通行が困難な状況となっている。（すり付け勾配が急なため）

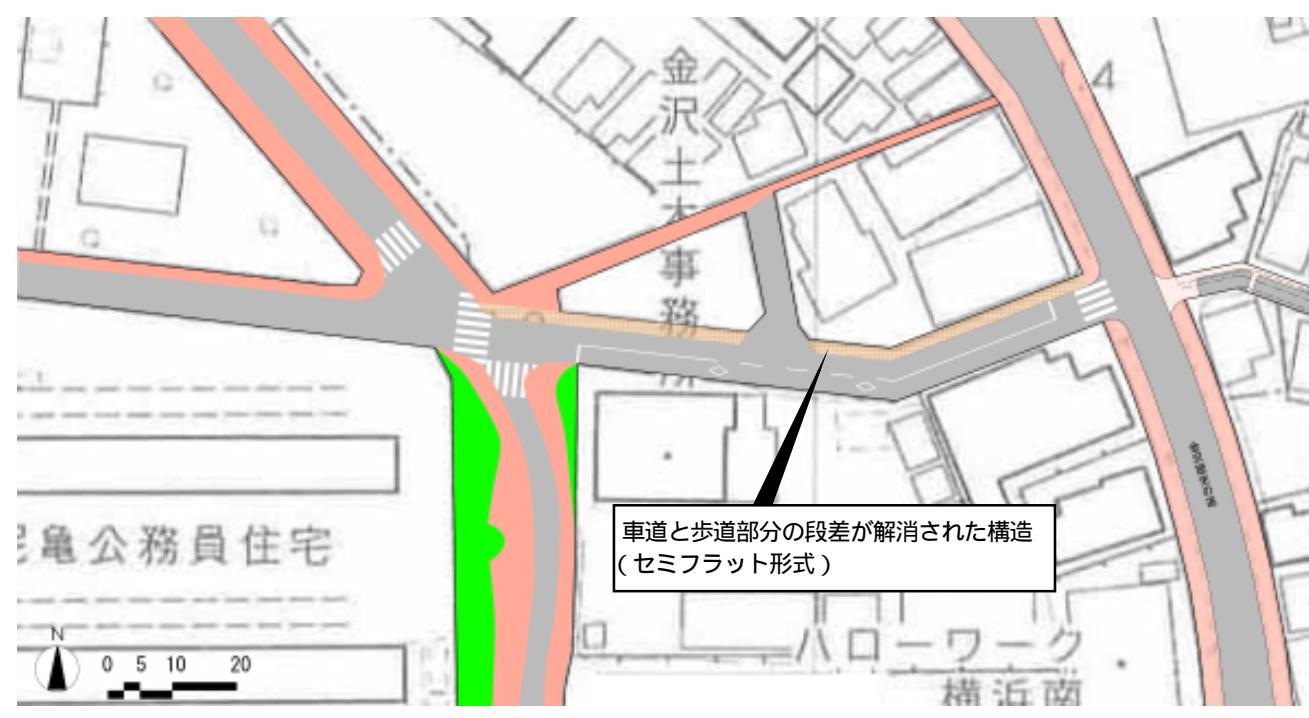
*国道16号と金沢歴史の道をつなぐ金沢土木事務所横道路では、国道16号からの歩道が分断されている。

方策

1. 歩道の整備（金沢土木事務所横道路）（短期）

*国道16号から金沢歴史の道（市道谷津坂467号線）交差点まで歩道が連続するように整備する。

■金沢土木事務所横道路 整備イメージ



■金沢歴史の道の現況



植栽帯



切り下げ袖すり付け部



8. 金沢シーサイドラインエレベーター整備

対象地と課題：金沢シーサイドライン 金沢八景駅～海の公園柴口駅

* 金沢シーサイドラインは、14 駅あり、金沢八景駅、八景島駅、市大医学部駅、並木北駅、新杉田駅の 5 駅にエレベーターが整備されているが、他の駅については未整備である。

* 交通バリアフリー法の基本方針では、平成22(2010)年までに、1日当たりの平均的な利用者数が5,000人以上の全ての旅客施設について、原則としてバリアフリー化を実施する等の目標を掲げている。

方策

1. 海の公園南口駅・海の公園柴口駅のバリアフリー化の向上（短期）

* 海の公園南口駅・海の公園柴口駅にエレベーターの設置を進めます。

2. 野島公園駅バリアフリー機能の向上（短期）

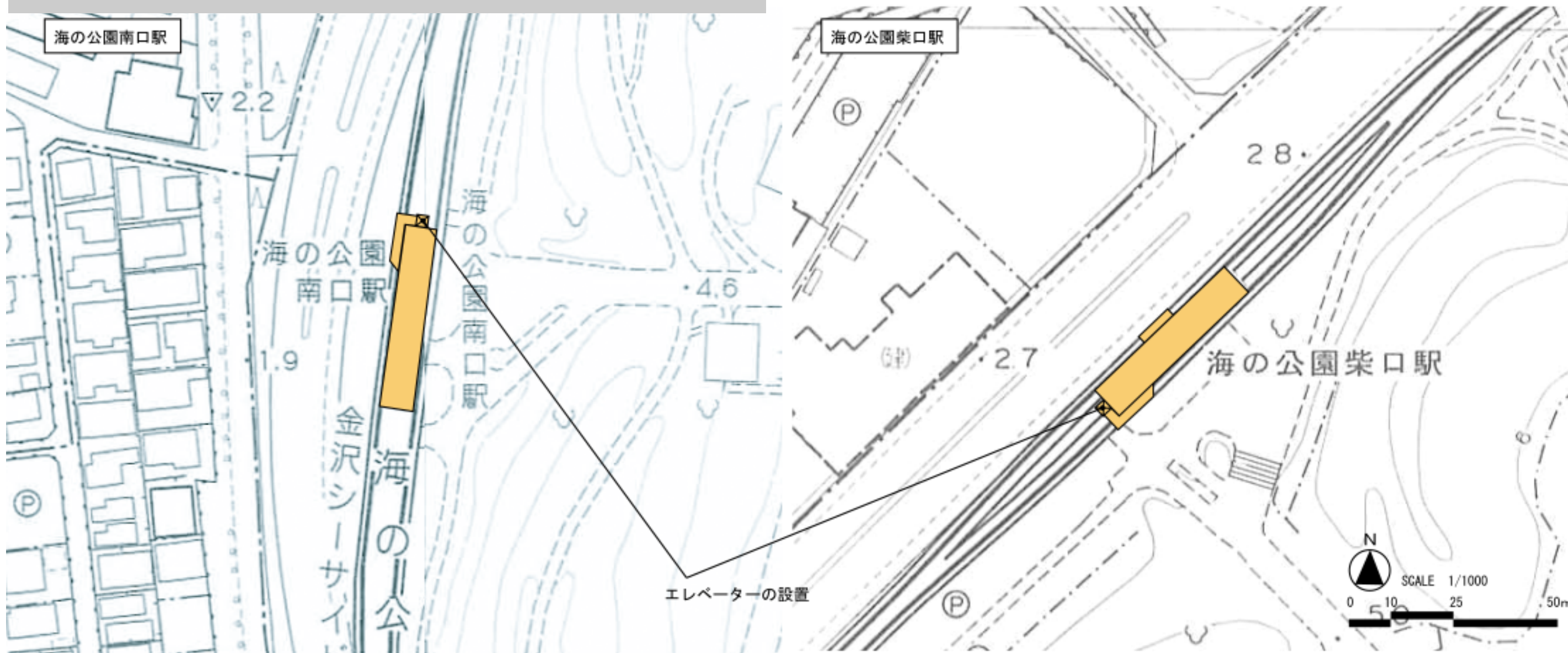
* 野島公園駅にエレベーターの設置を進める。

3. 野島公園駅の野島側出口の整備（短期）

* 野島橋の橋詰めと一体となった野島公園駅の野島側出口の整備を進める。



エレベーターの設置イメージ



9. 谷津川水辺環境整備

対象地と課題：谷津川および市道谷津坂277号線（幅員4.0～7.0m・総延長約400m）

* 金沢文庫駅西側を流れる谷津川護岸は、老朽化が目立っており、改修工事と合わせて、駅直近に流れる水の地域資源としての魅力的な空間の創出が望まれている。

* 沿川を走る市道谷津坂277号線は、駅方面への一方通行道路であるが、谷津町住民しか利用しないため自動車は殆ど通らない。逆に往来が少なすぎて魅力に欠けた場所となっている。

方策

1. 沿川の歩行者通行用路側帯の整備（短期）

* 川沿いの道路に周辺の歩行者ネットワークを補完する歩行者通行用路側帯（谷津川歩行者空間）の整備を進める。

2. 金沢文庫駅への歩行者空間の確保（短期）

* 金沢文庫駅西口の谷津川に右岸側から金沢文庫駅出入口への歩行者空間の確保を進める。

■谷津川プロムナード整備イメージ

谷津川沿いに歩行者空間の整備を進める。

